研究発表要旨

(1)　医療福祉における多職種連携のあり方の一考察

川崎医療福祉大学医療福祉学科　○大田　晋
川崎医療福祉大学感覚矯正学科　種村　純
川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科　平野　聖

【要　旨】

Ⅰ　研究の背景と目的

本学の「医療福祉の理念」(平成25年6月制定) は,『人間尊厳の確立を究極の目的とし，医学・社会・文化の統合的視点から人を理解し，健康・安心・自立の実現のために実践すること』とされている．この理念の実現を目指す「人の理解と実践」のための取組方法の一つとして,「多職種連携」が考えられる．

また，国は高齢者ケアについて「地域包括ケアシステム」の実現を打ち出しており,そのためには「医療と介護の連携」,「多職種連携」が必要不可欠であると考えられる．

こうした認識と状況のもと，多職種連携を先駆的に実践している先進地域の実態調査を行い，連携の実態を把握し，その成功の要因を分析する．

Ⅱ　地域実態調査

平成24，25年度の2カ年，計5回，あらかじめ選定した多職種連携先進地（3カ所:県北中山間地域 A，都市周辺の地域 B，わが国南西部所在の島の広域地域 C）を訪問し，多職種連携関係者にインタビュー調査を行った．

調査は，本学5学科の教員および高齢者福祉施設責任者の合計7人で行い，本学の3，4年生の学生有志を参加させた．

Ⅲ　調査結果

A 地区では，地域の在宅福祉担当者会議を定期的に開催し，テーマ発表，議論，情報交換，問題解決方法の検討などを行い，それを通じて関係者の「人間関係」を構築してきた．この「場」の設定・運営には，在宅ケアマネジャーの強いリーダーシップと行動力そして医療機関の後ろ盾（協力）があった．

B 地区では，地区の中心にある介護老人保健施設を多職種連携の拠点とし，そこの施設長（ケアマネジャー）の豊かな経験とリーダーシップにより，地区の高齢者在宅ケアにおける多職種連携を実現している．

C 地域では，大病院とそこにある介護老人保健施設を拠点として，リハビリ専門職が中心となって広域での多職種連携を展開している．

Ⅳ　考察

地域における多職種連携が成功するためには，地域における多職種連携関係者の人間関係の構築が最重要である．そのためには,①関係者が集まる「場」（定期的会合など）があること,②「場」を設定し，うまく引っ張って行くリーダーがいること，③対象者に関する情報共有のためのツール（共通カード）があること，が求められる．

今回の調査は，対象地区を多職種連携先進地区に限定したこと，対象地域数が少ないことなどから，その結果は一般化できないが，今後の研究の一助になることを希望する．